

「播磨国風土記」の世界
雨をめぐる物語

11月は、新しく収穫された米を神に捧げて感謝する、新嘗祭の月です。その米の生育に欠かすことのできないのが水。今でも、天の恵みである雨は大切です。まして、水利の発達していない時代には、雨を乞う人々の気持ちは非常に切実であつたに違いありません。さて、伊和大神と考えられる「大神」の後、許乃波奈佐久夜比売命がいたという雲箇里に「波加村」がありました。宍粟市波賀町に、その名が残っています。伊和大神が先に到着していた天日槍命を見て発した、「はからざるに（思いがけず）」という言葉から名付けられました。その地名由来の後に、興味深い伝承が記されています。「此処に到る者、

手足洗はざれば、必ず雨ふる」。この村にやつてきた人が手足をきれいに洗わなければ、必ず雨が降るといふのです。

雨乞いの神として知られた千種町の鍋ヶ森神社、その奥の院とされる清流沿いの岩にはまるで鍋のようなポットホール、甌穴と呼ばれる穴があり、この穴をかき回すと大雨が降ると信じられてきました。

水辺の神聖な場所を汚すことで雨を降らせる信仰は、各地で見られます。波加村の伝承はそんな背景を感じさせますが、波賀町安賀に鎮座する波賀八幡神社には子どもたちによって奉納されるチャンチャコ踊りが受け継がれています。昔、



▲「あめのりさん」と親しまれる雨祈神社



▲波賀八幡神社のチャンチャコ踊り

暴風雨で村が亡びそうになった時、神様に嵐を鎮めて下さるようお願い、嵐が収まった。それ以来、この踊りを奉納しているのだとか。宍粟市の無形民俗文化財に指定されている民俗芸能で、波賀町の原や引原、一宮町横山、千種町鷹巣など宍粟市北部に分布しています。

山崎町千本屋には式内社の雨祈神社がありますし、波賀町上野の宝殿神社では「上野の青刈りには必ず雨が降る」と言い伝えられてきました。風土記の時代に想いを馳せながら、宍粟の雨にまつわる物語を巡ってみてはいかがでしょう。か。

(播磨学研究所研究員 植田真弓)

おいでよ 図書館へ



宍粟市立図書館 ☎ 62-4620

おたのしみ♪
にんぎょうげき

12月7日(日) 午前10時30分～

出演:人形劇団

「ゆめ工房やまさき」

定員:60人

定員になり次第しめ切ります。

申込みは図書館へ



今月の
オススメ

プロ野球最高の投手は誰か

著者/工藤 健策

野球界一の頭脳派投手・江夏豊、快速球を誇った金田正一、メジャーで活躍中の田中将大…。過去から現役の25投手を伝説のエピソードを交えながら、力量を解説していきます。



おりがみで作る
壁面かざり12か月

監修/朝日勇

可愛くて、見栄えのする壁面かざりのアイデアが満載！大きな図で、わかりやすく解説してあるので、子どもや初心者でも簡単に作れます。

図書館カレンダー

□ 休館日 □ 館内整理日(休館)

【開館時間】 午前10時～午後5時30分

日	月	火	水	木	金	土
14	15					
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

編集
後記

10月25日に「NHK新兵庫史を歩く」の撮影が行われました。撮影当日は天気にも恵まれ、大勢の参加者の皆さんは篠ノ丸城址や宍粟市の名所、官兵衛ゆかりの地を巡りました。放送は11月23日の予定です。ぜひご覧ください。

また、撮影後には「夢公園」にて黒田官兵衛ゆかりの「目薬の木」の植樹や記念碑の序幕式も行われました。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

さて、秋の行楽シーズン。最上山公園もみじ山ではもみじ祭りが開催され、今年もすばらしい紅葉を見せてくれることと思います。みなさんも紅葉狩りに出かけてみませんか。

石